

令和5年度 奈良県立山辺高等学校 学校評価総括表(年度末報告)

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	総合学科高等学校教育の特色を継承し、一人一人の生徒の個性・可能性を伸ばし、「自分らしさ」を育てる教育を展開し、地域社会に貢献できる力を育成します。
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神を培い、自己敬愛と協調性を基盤とした人間関係の醸成に務め、明朗で思いやりのある生徒を育成する。 ・生涯学習の基礎を培う観点に立って、基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせ、主体性や創造性に富んだ個性豊かな生徒を育成する。 ・教育活動全体を通じて人間としての在り方・生き方を追求し、集団の一員として自覚をもって主体的に生き抜く行動力のある生徒を育成する。 ・国際的な視野を広め、国際社会に進んで貢献できる生徒を育成する。

1 スクール・ポリシーの内容

		共通項目	普通科項目	農業科項目
教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(1)自己の能力を積極的に高めようとする意欲のある生徒。 (2)各教科の学習に興味を持ち、進路実現に向け努力する生徒。 (3)進路実現に向けた資格取得に意欲的な生徒。 (4)科学的な視野を持ち、幅広く物事をとらえることのできる生徒。	(1)生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続する意欲的な生徒。(スポーツ探究コース) (2)英語力を生かし、国際的な視野を広げる意欲的な生徒。(キャリア探究コース) (3)多様な分野で主体的に行動できる職業人となる意欲的な生徒。(キャリア探究コース) (4)食生活など家庭生活に関心を持ち、知識・技術の習得に励む生徒。(キャリア探究コース)	(1)農業による地域活性化に取り組む強い意志を持った生徒。(生物科学探究科・自立支援農業科) (2)安全・安心な農業生産に関心があり、体験学習に意欲的な生徒。(生物科学探究科・自立支援農業科) (3)伝統産業の継承や栽培技術に関心があり、学習意欲に富む生徒。(生物科学探究科・自立支援農業科) (4)一般就労を目標とし、社会的自立に向かう意欲のある生徒。(自立支援農業科)
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	普通科項目 (1)スポーツ実践に通ずる専門性のある授業、栄養学や倫理学、よりレベルの高い内容の体育実技についての学びを提供します。(スポーツ探究コース) (2)実用的な英語力と、上級学校への進学に対応できる英語力を身に付けます。(キャリア探究コース) (3)旬の野菜や地域の食材などを使って実習をし、栄養に関する知識を身に付けます。(キャリア探究コース) (4)コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報機器を活用する実習を多く取り入れ「情報活用能力」の育成を図ります。(キャリア探究コース)	農業科項目 (1)農場での実習を通して、教科書だけではなく実践的な知識・技術を身に付けます。(生物科学(探究)科) (2)動物と人間の関わりを理解し、動物管理についての知識や技術を習得します。(生物科学(探究)科) (3)野菜・草花・茶について実際に畑や温室、茶園で栽培管理を学びます。(生物科学(探究)科) (4)知的障害のある生徒を対象として、普通教科や農業についての探究的な学びを提供します。(自立支援農業科) (5)個々の障害の状態や個性に応じ、社会的自立に向けた学びを提供します。(自立支援農業科) (6)就業体験の機会を多く設定することで、将来の社会的自立に向けた経験の場を提供します。(自立支援農業科)	
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	普通科項目 (1)生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続することができる。(スポーツ探究コース) (2)個としてのスキルアップはもちろん、リーダーシップや協調性、規範意識などを向上させることができる。(スポーツ探究コース) (3)英語を通して世界に目を向けることができ、広い視野を持つことができる。(キャリア探究コース) (4)栄養の基礎的・基本的な知識を学習し、食事管理に関する心構えを持つことができる。(キャリア探究コース) (5)商業科と情報科の基礎・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスに対する心構えを持つことができる。(キャリア探究コース)	農業科項目 (1)農業についての基礎的・基本的な事項を理解し、活用できる。(生物科学(探究)科・自立支援農業科) (2)人や動物を大切に思いやりを持つことができる。(生物科学(探究)科・自立支援農業科) (3)地域社会に貢献でき、意欲を持って行動できる。(生物科学(探究)科・自立支援農業科)	

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

※A:達成している B:概ね達成している C:改善が必要である

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	体力の向上	スポーツテスト平均Tスコア40以上	スポーツテスト平均Tスコア40以上	Tスコアとは、集団の平均を50とし、そこからどの程度の差があるかを示している数値である。昨年度の41という数値から今年度は44と数値が上がった。しかし、50という平均からしては、まだ差がある。	B	B	授業のトレーニングの質の向上と授業外での体力づくりのアドバイスなどを取り入れる。
	望ましい運動習慣の確立	体育の授業などで、息がはずみ、汗をかく程度の運動を週合計60分、毎週続ける	体育の授業などで、息がはずみ、汗をかく程度の運動を週合計60分、毎週続ける	授業前の準備運動、授業での球技やダンス、持久走、縄跳びなど年間を通して取り組むことができた。またコロナも少し緩和してきたため、複数人数で行うストレッチや競技も取り入れ、例年よりも授業内容のバリエーションを増えつつある。	A	A	授業のトレーニングの質の向上と授業外での体力づくりのアドバイスなどを取り入れる。
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率60%以上	朝食摂取率55%以上	保健の授業で食事のアンケート実施した。各学年1組の生徒は全員毎日3食摂取し、問題ないように思われる。2, 3組の生徒の中では昼と夜、または夜だけ食事をするというような生徒もいた。朝食を食べるのに「時間が無い」「食欲がない」と記入した生徒が多く見られた。朝食摂取率は67%と出たが、スポーツコースの生徒が大半を占めている。	B	B	授業内で朝食を摂取するための規則正しい生活習慣を整えるようアドバイスをしていく。

2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒の授業満足度の平均80%以上	生徒の授業満足度の平均75%以上	1・2学期に実施した授業アンケートでは、「満足」「概ね満足」が全回答の90.0%となり、「満足」は1→2学期にかけて3.1ポイント上昇した。	A	A	すべての教職員に絶えず授業改善を促し、個別最適学習の実現に取り組む。
	学習意欲の向上	ジェネリックスキルテストにおける学習意欲に関する項目の得点の向上	ジェネリックスキルテストにおける学習意欲に関する項目の得点の向上	年度末に独自再調査を実施し、同一年次の年度内での数値の変化を見る予定であるが、現状は実現できておらず、同一年次での変化は不明である。	B	B	学習意欲の向上に向けた授業・指導の改善方法を模索する。
	オンライン教育の推進	I C Tを活用した授業時間外の学習活動50時間以上、教員の情報活用能力80%以上	I C Tを活用した授業時間外の学習活動35時間以上、教員の情報活用能力70%以上	現段階で調査が実施できていないが、仮に1科目において1時間の端末を活用した課外学習を行ってれば達成可能な数字であり、目標の達成は蓋然的であると考えられる。	B	B	調査を来年度は実施したい。また、校内でのLAN環境が大幅に改善されたこともあり、次年度はより一層ICTの活用を念頭に置いた教育実践を行う。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	インターンシップ参加率95%	インターンシップ参加率90%	今年度2年次生のインターンシップは参加率100%となっており、勤労観や職業観を養うことができた。	A	A	継続的にキャリア教育を行っていく。
	産業界との連携の推進	「出前授業」を実施いただいた企業数5社以上	「出前授業」を実施いただいた企業3社以上	今年度は出前授業を4社に実施していただくことができた。	B	B	来年度は5社に実施していただけるように準備・計画を行う。
	働き方改革を念頭にいた職場環境の改善	総合健康リスク70以下にする。	総合健康リスク80以下にする。	総合健康リスク96と大幅に上がってしまった。	C	C	新設課程のカリキュラムや教材作成などで、教員の負担が増えてしまった。今後県教委と相談しながら、通信課程や総合学科のスムーズな移行につなげていく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会の年度3回の開催	学校運営協議会の年度3回の開催	第1回7/6、第2回11/6、第3回を2/26に行い、委員の方々に各分掌より今年度の総括を述べていただいた。	A	A	今年度、行政は入っていただけなかったが、地域のコーディネーター役を担っていただきたいので引き続き話を進める。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」における学校周辺地域、奈良の魅力について学習	学校周辺の臨地研修を伴う学習1回以上、奈良県内への臨地研修を伴う学習1回以上の実施、およびその学習成果の蓄積(1年次生)	1年次において、5月に学校周辺のフィールドワークの実施、11月に奈良公園周辺への校外学習を実施でき、総合学習発表会などで成果を発表した。	A	A	地域への関心を高め、郷土愛を育む教育の方策について引き続き模索していく。
	グローバルマインドの育成	異文化理解を深める機会を1回以上	人権・生活体験作文発表会で、外国人実習生と交流する。	行事の日程変更のため、人権・生活体験作文発表会を実施できなかった。	C	C	次年度の行事の際に検討する。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育学習資料の活用	教育委員会発行の「人権教育の手引き」をもとにSDGsの指標を活用したLHRの実施	2学期の人権ホームルームにおいて、SDGsの17のゴールのうち、関心のあるテーマを選んで調べ学習をして発表する。	人権ホームルームにおいて、SDGsの内容について調べ学習をし、公共や家庭科、IS等の授業を通して調べ学習や発表をした。	B	B	日常の学校生活の中でも人権意識を高めていく。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入すると答えた生徒の割合50%以上)	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進(卒業までのいじめ全件追跡、いじめを発見した場合適切に介入すると答えた生徒の割合35%以上)	令和5年未のアンケート結果では、いじめを発見した場合「適切に介入する」と回答した生徒は全体の18%。「わからない」と答えた生徒56%であった。いじめを「悪」と認識するも、その排除のために自ら行動を起こすことはむずかしいと答える生徒が多かった。このことから、生徒たちは真摯にいじめを考えていることがわかる。	C	C	各クラス、各学年での仲間意識を高めていく必要がある。そのためにも学級や学年・全校集会等で指導していく。
	個別の教育支援計画や指導計画の実効性のある活用	学期ごとに対象となる生徒の状況を組織的に確認	自立支援農業科の特別な配慮や支援が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画・指導計画に基づいて支援する。	個別の教育支援計画・指導計画を立て、職員間で情報共有することができた。	B	B	指導計画に基づいて各教科で指導していく。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

各分掌において、今年度の到達目標に向けて努力したことは、評価できる。
 生徒向けの授業アンケートから、全学年にタブレットを持たせ、各教室に電子黒板を設置して、各教科で工夫した授業をしていただいたこともあり、90%の生徒・保護者ともが満足と回答している。
 今年度取り組みなかったところは、次年度に計画的に取組を進められるように、各分掌で努力する。